

## 研究課題：80歳高齢者の義歯のケアに関する実態調査と専門的義歯清掃の効果に関する研究

研究者名：高橋英登<sup>1)</sup>、細見洋泰<sup>1)</sup>、岩崎正光<sup>1)</sup>、長田 斎<sup>2)</sup>、田村道子<sup>3)</sup>、安藤雄一<sup>4)</sup>  
所 属：<sup>1)</sup>杉並区歯科医師会、<sup>2)</sup>杉並区保健福祉部、<sup>3)</sup>杉並保健所、<sup>4)</sup>国立保健医療科学院生涯健康研究部

**目的：**義歯のケアは高齢者に対するヘルスケアにおいて重要な課題の一つといえるが、疫学調査が乏しく実態は明らかとはいえない。そこで、我々は、東京都杉並区が 2012 年度より開始した 80 歳区民に対する「健康長寿モニター事業」の一環として行われた歯科健診事業において義歯のケアに関する実態調査と専門的清掃サービスを行った。本報告では記述統計結果を中心に報告する。

**方法：**対象者は、杉並区の「健康長寿モニター事業」で行われた 80 歳の杉並区民全員行った郵送調査の回答者 2,476 名に歯科健診の案内文書を発送してデータ利用の同意を得た 285 名（男 120 名、女 165 名）である。調査は対象者が受診した 74 の歯科医療機関で行われた。調査項目は、保健行動等に関する問診と口腔診査で、内容は区が実施する成人歯科健診事業に準拠した。義歯保有者については、義歯のケアに関する質問紙調査を行い、義歯に付着した汚れを診査した。デンチャープラークについては染め出しを行った。さらに義歯の専門的清掃（Professional Mechanical Denture Cleaning、以下 PMDC）を行い、その感想等についての聞き取り調査も行った。

**結果：**対象者 285 名のうち、義歯を所有していたのは 160 名（56%）であった。平均現在歯数は 18.5 本で、20 歯以上は 6 割であった。上下顎の総義歯・部分床義歯別にみた義歯の汚れの付着状況は、色素沈着が 4～6 割程度に、歯石状の硬い沈着物が 1～4 割程度に、広範囲のデンチャープラークの付着が 6～7 割に認められた。義歯のケアについては、義歯を毎食後清掃している人が 63%、義歯専用ブラシ利用者が 14%、義歯洗浄剤の利用者が 61%、義歯安定剤の利用者が 4%、就寝中に義歯を口に入れたままの人が 29%であった。デンチャープラークの付着率は義歯が大きいほど高い割合を示し、比較的大きな義歯では就寝中義歯を外さない場合に高い付着率を示した。また、比較的大きな義歯では義歯洗浄剤使用者の歯石状の硬い沈着物の付着率が低い傾向が認められた。PMDC については約 9 割が今後も実施を希望していた。

**考察：**今回行われた調査結果の記述疫学的な評価は、類似調査の蓄積が少ないので注意すべきところがあるが、対象者の喫煙率が低く歯間部清掃の実施率が高いことから、おそらく一般的な集団よりも良好なのではないかと推察される。杉並区の「健康長寿モニター事業」は同一対象者を今後 5 年間追跡調査する予定で、義歯のケアと健康状態等との関連について今後も検討を重ねていく予定である。